仏縁の網目の不思議さ

東京都　井上葉智様

成寿第二七巻のご恵送ありがとうございました。

方丈様には、益々お元気にご活躍なされているお姿を拝見して心から嬉しく、その意気に、またまた深く感じ入りました。

思い起こせば一九八九年十一月のタイ旅行で、佐藤俊明様と黒田様と初めてお目にかかり、仏縁の深さを感じました…。（拙著'89『坐禅のうた』2集を四月に出版しその図書紹介を曹洞宗報に角家文雄氏が記載して下さいました…其処に佐藤俊明師の図書も掲載されていたのですが、私はそのトキは露知らずのお方で、タイで手を繋いで歩こうとは？…）

その後一九九一年五月、西嶋和夫老師より在家でありながら「剃髪の儀」をして頂き、その旨方丈様のところにご挨拶に行きましたトキ、丁重なオモテナシを頂戴し、またその年の十月に拙書詩集『ヴィーナ』出版記念パーティにはご臨席までしていただき恐縮しました。

仏縁の網目の不思議さを目

の当たりに体験させていただいている中で、コトバでは言い表せないイノチを感じさせていただいております毎日です。

ことに黒田様の留学僧育英会の聖業は偉大で、一口の布施行という趣旨に共感を覚えました。ご縁を得てから私なりに春彼岸と秋彼岸の月に、寄付を一生させて頂こうと誓願しました。デモ成寿のご本の最後に名前が列記されていますが…些少な額にこそ「それなりの価値あり」と、勝手に解釈して喜捨してきました…。それなのに今年の春彼岸をスッカリ失念してしまい深く恥じ入りました。今年は、一月に水野弥穂子先生を中心に栃木曹洞宗青年会の主催で、インド仏跡の旅に出ました。私には丁度十年目の再度の渡印です。留守の後の雑事にかかわり、予定欄の記録をしていませんでした。

私的な事ですが五月十日は実父の命日です。その日を一口布施行の日として、喜捨させていただきます。よろしくお願い申し上げます。

亡妻戒名に院号付与 形あるもので顕彰

横浜市　川田悦男様

黒田方丈様には益々ご清栄の段大慶に存じます。

先に電話でご相談申し上げました亡妻戒名に院号付与の件は、快く応諾下さりありがとうございました。急逝だったこともあり、行き届かぬことも多々ありましたが、沢山の方に見送られて、心に残る葬儀を行うことができました。桐元院代様にはお世話になり感謝しております。

来春は早いもので七回忌に

なります。当時大学三年（長女）、同一年（長男）、中学一年（次男）だった子供も、長女は結婚し、長男は就職、末子も大学に入る年になりました。私は仕事と家庭の一人二役でしたが、お陰で、いずれも真っ直ぐに育ってくれ、法要にはそれぞれ胸を張って報告できるように思います。これも故人が確り育ててくれた賜物であり、その功績に謝意を表する意味もあり、ふと「院号」を思いついた次第です。

願わくば、慈愛、優しさが表れるものであればふさわしいように思います。また、できれば、今の戒名の上に付すれば馴染んでおりますし、最善と考えております。普段は、故人を荘厳に祀り、花、水を欠かさず供養している積りですが葬儀当時が突然の混乱の中であったことにも鑑み、この七回忌に際し、形あるもので顕彰できればと考え「院号」をお願いする次第です。ほかに墓碑を追刻する積りですが、その他、この院号の付与にあたり配慮すべきことがあればご教導賜りたいと存じ、お願い申し上げます。

なお、私事ながら昨年十二月の故人の誕生日に、突然、駒澤大学の副学長より、法学部の講師（新カリキュラム金融法）を引受けてほしいとの委嘱を受け、曹洞宗のこともあり、故人の導きかなと考え、やらせて頂くことに致しました。もうすぐ一年になりますが、銀行の仕事の傍ら、週一回は大学で講義という生活で、キャンパスには剃髪の仏教学部の院生も多く、新鮮です。実学の楽しさを青年に伝えたいなどと欲張っています。これも縁というものなのでしょう。

どうぞ微意お汲みとりの上、よろしくお願い申し上げます。

世界の平和を第一に考えて暮す

岡山県　鳥屋原百合子様

善光寺様には皆様ご壮健にてご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年もむづかしい事件が解決を見ないままに、いたずらに日を過ごしております。

世界平和ということはそんなにむづかしいことなのでしょうか。誰一人として願わない人はないのに実現できませんね。でもせめて一人ひとりが世界の平和を第一に考えて暮らしていたら、いつかかなえられる時がくるでしょう。それをひたすら祈るばかりです。

仏教学の研究に精進

和歌山県　森　雅秀先生

御無沙汰いたしておりますが、先生におかれましてはおかわり無きことと存じ上げます。

さて、昨年留学先のロンドン大学に学位請求論文を提出し、口述試験を受けましたところ、過日、学位(PhD)授与の連絡がありました。ロンドン大学の博士課程に入学してから、およそ9年の歳月がたちましたが、ようやく終了することが出来ましたことを、御報告申し上げます。学位論文は〝The Vajrāvalī of Abhayākaraguptaの〟のタイトルで、全体は五〇〇頁あまりの大部なものとなりました。さいわい、面接の試験官からも御高評を得て、指導教官のT. Skorupski博士も喜んで下さいました。

今から思い返しますと、八八年からのおよそ2年間のロンドン留学は、私にとってなにものにも代え難い貴重な経験でした。同じ二年間でも日本ですごすものとはまったく

異なる、密度の濃い時間だったと思います。留学に際しましては黒田先生をはじめ、留学僧派遣育英会の皆様の暖かいご支援をいただいたことにあつく感謝しております。当初の予定ではコース修了まで現地に滞在するつもりでしたが、思いがけず、出身の名古屋大学より九〇年に助手の職を与えられ、さらにその後、縁あって高野山大学に移ることになりました。そのあいだ、学位論文の執筆を断続的に続けてはまいりましたが、日々の業務や依頼原稿などが重なり、思いがけず長い時間が経過してしまいました。黒田先生には御心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

日本はともかく、海外では博士号は一種の「ライセンス」のようなもので、一人前の研究者としてやっていけることを認めただけと聞いております。これからも仏教学の研究に精進する覚悟でありますので、何卒、御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

取り急ぎ、学位取得のご連絡を申し上げました。時節柄、御自愛のほどをお祈りいたしております。（第四回育英生）

すばらしい講話

栃木県　稲垣実雄様

樹木もすっかり若葉になり時には日影の過し易さを感じる今日この頃であります。

先日は遠路母校（栃木県立大田原高校）の記念講演に来て頂き誠にありがとうございました。同窓会の常任理事の一人として計画にかかわり成功裏にすべてが終ったことに感謝致します。特に第八回の二年振りの同期会を盛り上げていただいたことに心からお礼申し上げます。集いし会員

一同貴兄の心くばりに感謝しておりました。

今をどう生きるか。本当に大変な時を迎えております。若い生徒にとっても力強く生きることの大切さが理解できたのではないかと思います。社会の変化と共に安穏に生きることを若い時より何の不自由もなく大高生などは過しているように思います。そのような苦労して、努力して生きることの実地を知ったのですからすばらしい講話でなかったかと考えております。本当にありがとう。

〝終生現役〟の信念で

栃木県　**植松久夫様**

過日の同期会における貴兄の気配りに心から御礼申し上げ、改めて感銘をうけました。

我々同期生も六十歳という節目を通過し、又、新しい人生の門出に向ってスタートした方々も多くいます。これからが大切な時期と考えています。

生物の成長過程でも否応なく、成長・退化・老化の過程に入っていく理由です。この様な時、心に浮んでくる事は、「人生如何に生きるべきか？」という問いです。

この様な問いに対し貴兄などは我々の先達でもあり何かと相談し易い立場にあり我々一同大変良き友達を持ってすばらしい、と自負している一人でもあります。

しかしこれも何んと言っても、健康が大切ですね。小生も六十歳になって、これから再度チャレンジしてみたいと頑張っておりますが、つくづく実感として痛切に思われます。

〝終生現役〟の信念で生きて行く所存でいます。これもまた楽しい生き方であり、若

さを持つ秘けつでもあります。

年を過っても、何か世間の役に立つという事は、大変意義ある事でもあり、これまでと違った価値観を持って邁進していくつもりでおります。

お蔭様で、ご先祖様そして両親、良き先輩友人に恵まれ今日まで大過なく生きてこられましたが、これも皆から支えられ生かされているのだと考えております。